

# 2013年1月1日～2023年6月30日の間に当科において肝胆膵外科の治療を受けられた方へ

## —「切除不能大腸癌肝転移に対する集学的治療における拡大肝切除の適応・手技と成績の検討」へご協力をお願い—

当院では以下の臨床研究を実施しています。この研究は、福山市民病院倫理審査委員会において倫理的および科学的に問題がないか審査を行い承認され、院長の許可を得ています。ご理解とご協力をお願いいたします。

研究機関名	福山市民病院	外科		
研究責任者	福山市民病院	外科	副院長	貞森 裕
研究分担者	福山市民病院	外科	科長	門田 一晃
	福山市民病院	外科	科長	岩崎 寿光
	福山市民病院	外科	科長	日置 勝義

### 1. 研究の概要

#### 1) 研究の背景および目的

化学療法の進歩によって、切除不能とされていた大腸癌肝転移に対しても、根治的な切除ができる機会も増えています。そのようなコンバージョン手術では、大量肝切除や肝静脈・下大静脈の合併切除再建といった拡大手術を要し、安全性の確保が重要となります。今回の研究の目的は、切除不能とされた大腸癌肝転移に対して、有効な化学療法後に施行した拡大肝切除が治療成績に及ぼす影響を後ろ向きに検討し、それらの手技と成績をより安定させることです。

#### 2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

血管の合併切除再建を伴う肝切除や ALPPS 手術を併用した大量肝切除の手技と成績を安定させることによって、大腸癌肝転移に対する治療成績を向上させ、治療限界の克服につながります。

### 2. 研究の方法

#### 1) 研究対象者

2013年1月1日～2023年6月30日の間に福山市民病院 外科において、切除不能と定義された大腸癌肝転移に対して、有効な化学療法を行った後に肝切除を受けられた方を研究対象とします。

#### 2) 研究期間

2023年10月2日（倫理委員会承認後）～2024年9月30日

#### 3) 研究方法

2013年1月1日～2023年6月30日の間に福山市民病院 外科において、切除不能と定義された大腸癌肝転移に対して集学的治療の一環として肝切除を受けられた方に関して、研究者が診療情報をもとに上記手術のデータを選び、その手技と成績を分析します。

#### 4) 使用する試料

この研究のために使用する試料はありません。

#### 5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、あなたの個人情報は削除し研究用の番号を付して、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 年齢、性別、疾患名、腫瘍の進行度
- ・ 術前に施行された化学療法のレジメンと投与サイクル、策定された治療計画、残存予定肝容積と比率の経時的推移、残存予定肝の増大率、肝切除術式
- ・ 肝静脈の再建法、血管・臓器の遮断時間（全肝血行遮断の有無）、体外循環/肝冷却併施の有無、手術時間、出血量、術中・術後合併症の有無とその内容、術後入院日数、術後生存率、術後無再発生存率等のデータ

#### 6) 情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、福山市民病院のパソコン内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、当院のホームページに掲載してお知らせします。

#### 7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究はあなたのデータを個人情報がわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2024年8月31日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご利益が生じることはありません。

#### <問い合わせ・連絡先>

福山市民病院 外科 貞森 裕  
電話：084-941-5151